

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド 基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における 基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>基盤整備エリアは利用が見込まれるところから整備・普及してきたと思うが、現状、未整備になっているエリアは利用が少ないと考えられるところであり、そういうところは電話や携帯電話で十分と考えてる方が多いのではないのでしょうか。私自身も普段は電話と携帯電話があれば十分だと思っていますし、最近では技術進歩も発展しており、私のような年配者でも使える便利な端末も出ていますし、インターネットなども無線ででき、CATVなど多様な通信手段がありますので、財政の厳しい国費を使ってやるというなら、まだ未整備のエリアの方々からアンケートを取るなどして意見収集を行って本当にそのエリアの人が必要としているかを見極めてからにすべきだと思います。折角、整備エリアにしても利用率が上がらないということでは無駄な投資をしたことになってしまいます。必要最小限かつ効果的なお金の使い方を考えていただきたいと思います。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>前段でも述べさせていただきましたが、必要なところにだけ基盤整備を行うべきであり、不必要なところにも行っているから利用率が上がらないのではないのでしょうか。基盤整備してしまったから利用率を上げなければいけないというふうにはしか考えられません。しかし、すでに基盤整備してしまったところは無駄にしないためにも、利用率の向上を図らなければならないと思いますが、料金だけでなく、国民のニーズに合った、特に私のような年配者も簡単かつ日常的に利用できる様々なサービスが必要で、そのための政策的な取組みを期待いたします。</p> <p>また、光への移行については、電話のみで十分という年配者も多く、そういった家庭の配線や電話機の取替といった余計な経済的な負担につながるものが懸念されますので、国民の利用実態について時間をかけて十分に把握し、慎重な対応をお願いします。</p>